

令和6年度 学校における働き方改革推進モデル校 実践報告 古田中学校

学校の概要

- 学校教育目標「気づき、考え、やり抜くことのできる、心身ともにたくましく、思いやりのある生徒の育成」
- 学校経営計画（働き方改革）「教職員が心身共に健康的に生徒に対応できるための業務改善」
- 生徒数667名（22学級：特別支援学級等含む）



令和5年度の主な取組

放課後の時間確保

火曜日は
仕事に集中できる

- ① 定時退校日としている毎週火曜日を部活動休業日とするともに、5時間授業・清掃なし・終学活5分・14:30下校の日課（本校では「会議日課」呼んでいる。）とし、さらに、諸会議を入れないこととすることで、放課後の時間を確保した。
- ② 夏季休業期間終了後から夏季の部活動の終了時間を、17:30完全下校に繰り上げた。その際、活動時間を保障するため、活動着で下校してよいこととした。
- ③ 欠席生徒への連絡にICTを活用した。

質問項目	回答の割合
①の取組が効果的であったと感じる	86.7%
②の取組により業務の改善ができた	83.4%
③の取組により業務の改善ができた	88.9%

校内情報共有の改善

デジタルもいいけど
紙も大切

- ① PCによる情報共有を進めるとともに、伝達の即時性を図るため、5月から、職員室内のコピー機前に、掲示板を設置し、紙ベースによる情報共有と併用した。
- ② 日課や予定等を見通せるよう、各月の行事予定表及び時間割を、1か月前には提示した。変更があった際も直ちに掲示するようにした。



質問項目	回答の割合
業務の改善ができた	96.7%

令和6年度に解決を目指した主な課題

◆プランの達成目標の実績（令和5年度）

項目	令和5年度実績			
	全体	校長・教頭 主幹教諭	教諭等	事務 職員等
目標1 年間月平均の勤務時間外の在校等時間が45時間以下の教職員の割合：100%	56%	0%	55%	100%
目標2 連続した3か月平均で勤務時間外の在校等時間が80時間以下の教職員の割合：100%	88%	100%	85%	100%
目標3 年次有給休暇の平均取得日数：16日以上	17日	13日	17日	18日

◆校内アンケート結果より（令和6年4月実施）

質問項目	肯定的な 回答の割合
子どもと向き合う時間を確保できていると思いますか。	51.6%
授業準備のための時間を確保できていると思いますか。	61.3%

- 『昨年度からの取組を通して確保できるようになってきていると思いますか』に対しては、子どもと向き合うが78%、授業準備が76%と改善されつつはあるが、負担感は依然と高い。より効果を高めるために、更なる日課の見直しを行う。また、昨年度効果の高かった定時退校日の5時間授業を年間通して実施できるよう計画を立てる。

令和6年度の主な取組と成果

日課の見直し

登校時間を早め、朝のSHRと清掃の時間を短縮した。

◆校内アンケート結果より(令和6年12月実施)

質問項目	肯定的な回答の割合
登校時間を5分早め、朝読書とSHRの時間を短縮してよかったですか。	85.3%
清掃時間を短縮してよかったですか。	91.2%

○5分毎という発想を捨て、朝読書7分間、SHR8分間、清掃時間を12分間とすることで、全体の時間を調整することができた。

チャイムは5分ごと
でなくてもいい

定時退校日の徹底

年間通して定時退校日の取組を32回実施。

◆校内アンケート結果より(令和6年12月実施)

質問項目	肯定的な回答の割合
職場には、気兼ねなく帰れる雰囲気があると思いますか。	91.5%
あなた自身、先を見通して計画的に業務を遂行できていると思いますか。	85.3%

○今年度も目標を超える平均17日の年次有給休暇取得となった。まとまった時間ができたことで計画的に業務を遂行できるという効果も見られた。

火曜日は
帰ろうDay!

令和6年度の取組の評価

◆プランの達成目標に対する実績より

項目	R6実績	R5実績との比較
目標1	74%	+18P
目標2	95%	+7P
目標3	15日	-2日

○目標1「年間月平均の勤務時間外の在校等時間が45時間以下の教職員の割合:100%」については、昨年度に続き今年度も18ポイント増加した。また、各月の平均も40時間から33時間へと7時間減少した。

○目標2「連続した3か月平均で勤務時間外の在校等時間が80時間以下の教職員の割合:100%」については、100%には届かなかったが年間で80時間を超えた延べ回数は昨年度の20回から6回へと激減した。

○目標3「年次有給休暇の平均取得日数:16日以上」については、昨年度より2日減ったが、昨年度はサミットによる臨時休業日があり、今年度は学校閉庁日と土曜日、日曜日が重複した影響もあると考えられる。

◆校内アンケート結果等より

項目	肯定的な回答の割合等	
	R6.4月	R6.12月
今後もこの学校で働きたいと思いますか。	78.5%	79.4%
今の働き方に満足していますか。	74.2%	67.7%
仕事と生活の調和がとれていますか	45.1%	55.8%

◆まとめ

○昨年度同様8割近くの教職員が今後もこの学校で働きたいと感じていることは1つの成果と考えられる。昨年度5割弱であった満足度については、約7割という成果もあげられた。ただ、「仕事と生活の調和」になると、伸びてはいるが5割強である。一定の成果は上げられたが、推進モデル校ではなくなる次年度以降も課題を見つけ、対策をとらなければいけない。

2年間の取組を通して

○今年度は、定時退校日の取組を年間通して進め、清掃の有無や会議日を固定するなど日課や行事の見直しを行った。結果、4月から12月までの9か月間の勤務時間外の在校等時間の平均時間合計が-70.6時間(-7.8時間/月)となった。日課の見直し以外、目新しい取組がない中で大きく改善されてきたことは、教職員の意識改革によるところが大きいと考えられる。また、2年目は、1年目との経年比較を行うことで、課題をより明らかにすることができた。今後も比較、検討していくことが効果的である。